

平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 理学部・2年

氏 名: HE SIMING

授業科目名	海外異文化体験実習 (台湾の歴史と多様性を学ぶ)
研修先 (国・地域) 滞在地	国立成功大学 他 (台湾・台北、花蓮、台南、高雄)
研修期間	平成30年9月18日～平成30年9月27日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>台湾での研修で得られた主たる成果は三つ挙げられます。第一は、海外では日本人同士の間で通用する「空気を読む」より、正直に言ったほうがお得であることです。それはとくに買い物するときに見られます。日本では店側が思いやりをもって、客に対していろいろ用意してくれる場合が多いようですが、台湾では違って、客が申し出がない限りでは、向こう側が常にこちらの期待を想定しなく応じることをしません。しかし、こちらから積極的に話しかけたりして、向こう側も喜んで話を長くしてもらえることが多い。このように、言葉に頼る比率が低いとされる日本語を操る日本人は、海外でうまくコミュニケーションをとる必要性が見えてきます。第二は、信仰を持つことの重要性を認識したことです。それは、台湾では、都心であれ、農村であれ、どちらに行っても廟の姿が目映り、宗教活動への関心が衰退しつつあるとされる若年層であっても、自分なりの信仰を持っていることです。彼らは神様の存在を信じるかどうかにかかわらず、時々廟へ参拝に訪ねます。その時に、感謝の気持ちを込めることもあれば、子供にしつけや教えることもあります。もはや、廟は単なる宗教儀式を行う場所ではなく、彼らの信仰を寄せるところです。こうすることで、彼らは心の安らぎを見出す。第三は、初日に訪ねた新移民会館での「居留を考える」という主題から、外国人にとっての居留の意義の思考です。私自身も外国人という身分で日本に長期滞在しておるにもかかわらず、特に法律上での就労の権利や国籍取得の権利、選挙権、さらに、デモを行う権利など、一切考えたことはありません。ところが、地元の台湾人男性と結婚した日本人妻にとっては、そのような権利を許可されないまま、放棄するわけにはいかなくて、その代わりに、国会議員や有力者に提案をすることで、外国人配偶者の声を聴かせることになりました。その結果、最善の局面になりませんでした。就労条件の緩和や国籍取得可能などの改善策が次々と打ち出されています。これは、同じような立場にいる外国人の私にとっても良い啓発だと思っております。これから、外界からひたすら受け入ればかりをしないで、自分の権利を守りながら、改善を求めることに心がける必要があります。そのほかに、最も記憶に刻まれているのは、やはり、延べ3回で台湾人の大学生との交流会です。私の感覚から言えば、向こう側の大学生は情熱的で、数時間に過ぎない交流時間内で、台湾と日本との文化の相違点などをめぐって意見交換してから、その場で、お互いに連絡先を登録する人もいました。とくに、高雄海洋科技大学の学生さんたちと、3カ月ほどやりとりを続けてきましたので、今回は私たちが高雄に近い台南市についたところに、わざわざ高雄から観光地案内にやってきた学生がいました。その後も、引き続きいろいろアドバイスをしてくれて、観光名所に連れて行ったり来たりしました。その親切ぶりに感動しました。以上のように、これらは研修を通じて得た成果だと思います。</p> <p>〔研修後の抱負〕</p> <p>研修後の抱負としては、二つの視点から考えます。一つは個人的な面では、これからの生活の中で信条を守って他人と優しく接し、人情味を感じさせるのを貫くことです。もう一つは社会的な面では、向こう側の台湾が同じ漢字文化圏であり、鹿児島との地理的に近いですので、お互いに交流を増やすことです。今回の研修で、私が見た限りでは、台湾の大都市にだいたい「文化創意園區」というデザインに富んだ芸術品が展示されるゾーンがあります。それは、台湾人の美学に対する意識が強いという証ではないかと思えます。ところが、台湾人が日本のことをよく知っているといわれるものの、鹿児島のことをあまり知らないようです。それを狙って、台湾人を招待して、鹿児島の名産品である薩摩切子や、薩摩焼、竹製品、または鹿児島を舞台とした明治維新の歴史やその跡を紹介するビジネス事業を開始するのもいいでしょう。</p>	

平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部・2年

氏 名: 高尾 佳那

授業科目名	海外異文化体験実習 (台湾の歴史と多様性を学ぶ)
研修先 (国・地域) 滞在地	国立成功大学 他 (台湾・台北、花蓮、台南、高雄)
研修期間	平成30年9月18日～平成30年9月27日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>私はこの研修を通して、ネットの情報では知り得ない台湾人の生の声やそこに息づく生活を見ることが出来ました。研修に行く前に、台湾は日本に統治された時代があったのにも関わらずどうして親日といわれる人が多いのかという疑問を持っていました。また実際に台湾に行ってみても、日本統治時代の建物は観光地として栄えているなどという印象を持ちました。統治時代といういわば負の時代を連想させる建物を観光地とすることは今を生きる台湾人にとってはどのような気持ちなのかも気になりました。しかし国立台南歴史博物館に行った際、日本の統治時代を含む古来から現代に至るまでの台湾の歴史の展示を見ていくつか気づかされた点があります。国立台南歴史博物館では日本が統治時代に行った功罪両面の展示してありました。例えば日本は原住民族の虐殺を行う一方で民族の分類も行ったこと、また兵役を課し、戦後の補償では支払いを拒む一面のある一方、台湾の公衆衛生やインフラを改善・発展させたことなどが挙げられます。また電車に乗ってタイムスリップをしながら歴史を見ていくというアトラクションや当時の部屋や人々を再現した模型が博物館内にはあり、小さな子どもも興味を持ちやすく分かりやすい展示の工夫がしてありました。このような博物館や街中の統治時代を感じさせる建物の存在は台湾の早期歴史教育に繋がっているのではないかと考えます。統治時代の建物の観光地化に関しては、国内外問わず統治時代を含めた台湾の歴史そのものを知ってもらうために必要な手段であり、台湾の人々は歴史を客観的に見る視点をもつことも学ぶことが出来ました。台湾は親日の国と言われますが、日本人がそれに甘えて歴史を知らないということはあってはならないと改めて感じました。また今回の研修では台湾の大学生と交流する場が沢山あり自分の視野の狭さに気づかされました。具体的に言うと、日本の就職活動を紹介し意見を交えた場面でのことです。日本独自の制度ということはあらかじめ知っていたけども、そのような制度を続ける目的と意図が分からないと台湾の学生に言われたとき、自分たちの当たり前は世界にとっての当たり前ではないということに改めて強く感じました。今回の研修では台湾の歴史や文化を学ぶと共に、自分たちの国や文化に浸っているばかりでは気づかないことがあり、またインターネットで知ったきになっていた自分の無知さ・視野の狭さに、気づくことできたということが1番の成果だと思います。また台湾の市内をまわる中で気づいたことがいくつかあります。それはタクシーや夜市、いくつかの観光施設でのことですが観光客に対して英語をあまり使わなかったり、英語の表記がないという点です。漢字が使用されているので日本人である私たちはまだ少しは理解出来ますが漢字を使わない言語を母国語とする人々は厳しいかとおもいます。2つ目は史跡などの入場料の学生割引率が高いという点です。ほとんど半額になることが多かったように感じます。この2点はこれからの鹿児島の観光に生かせるのではないかと考えました。鹿児島市内の主要な施設は英語表記がほとんどありますが、もう一度見直していき、できればまた異なる言語表記も付け加えることが出来たらより観光客に親切だと思います。加えて入場料の学生割引についてです。日本では小中学生・高校生・大学生・一般という区切りが多いかと思えます。これでは年齢が上がるほど学生の割引率は下がって行きますが、学生旅行というように普通は年齢が上がるにつれてアルバイトを始め、自由に使えるお金・時間をもつ人が多数でしょう。それならば割引率を上げ学生が入場しやすいように図ることも1つの戦略ではないでしょうか。</p>	

平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部・2年

氏 名: 高尾 佳那

授業科目名	海外異文化体験実習 (台湾の歴史と多様性を学ぶ)
研修先 (国・地域) 滞在地	国立成功大学 他 (台湾・台北、花蓮、台南、高雄)
研修期間	平成30年9月18日～平成30年9月27日
[研修後の抱負]	
<p>1年半中国語を勉強していたので、今回の研修は自分の力を試す機会だったとも思います。実際に現地の人と交流してみると単語の知識不足や話すスピードなどにより中国語を聞き取れないという問題が見え、悔しく思いました。鹿児島大学には留学生と外国語学習できる「グロスぺ外国語」という場が設けられています。そこで実際の会話を通して自分の語学力を磨いていきたいと思えます。加えて、今まで迷っていましたが今回の研修を通して留学をしようという決心できました。今年中にHSKを受け合格することを目標として勉強していきたいと思えます。</p>	

平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部・2年

氏 名: 松比良 まどか

授業科目名	海外異文化体験実習 (台湾の歴史と多様性を学ぶ)
研修先 (国・地域) 滞在地	国立成功大学 他 (台湾・台北、花蓮、台南、高雄)
研修期間	平成30年9月18日～平成30年9月27日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回の研修を通じて得た成果として3つのことが挙げられる。第一に、外国人労働者について理解を深めることができたということだ。私のグループは、成功大学と高雄大学でのプレゼンのテーマとして「外国人労働者」について事前に調べていた。外国人労働者の中でも、「介護」の分野にかかわる人のことについて興味があった。そして研修2日目に訪れた新移民会館で、居留を考える会の会員の方から、実際に外国人労働者について話を聞く機会があった。住み込みで外国人ヘルパーを雇っている方の話で、私たちが問題視していた言語の壁についての現状を知ることができた。実際に言語の壁に当たったことはないが、宗教などの文化的差異の方が戸惑ったとのことだった。日本でも外国人労働者の需要が増加している。雇用者と労働者の間でコミュニケーションを十分に取り、相手の文化や人格を理解し、お互いに歩み寄ることが大切であると知ることができた。鹿児島にも外国人労働者が増えてきている。その雇用主と労働者の間で円滑なコミュニケーションが取れているのか興味があった。第二に、言語の壁は取り払うことができるということを知ることができたということだ。研修に参加するまで、外国人と接する機会は少なく、また鹿児島大学内で接する留学生とは主に日本語で会話をしていた。そのため、実際に外国で生活ができるのだろうかと不安に思っていた。中国語の能力は、初級を1年間履修したが実践するには厳しいレベルであった。しかし行ってみると、駅や空港の方は英語や日本語で対応してくれたため安心だった。しかし、夜の店の店員さんとは英語での会話が伝わらないことが多かった。そのため、指で数を表したり、メニューや物を指差したり、口から出る言葉以外で十分自分の意思を伝えることができた。鹿児島に来る観光客も同じ気持ちであったのだろうと実感した。鹿児島では、市電のアナウンスを日本語と英語で行ったり、観光パンフレットを日本語、英語、中国語、韓国語で発行したり、海外の人向けに対応している。しかし、台湾と比べるとまだ足りない部分が多いのではないかと考えた。第三に、日本と台湾の関りについて知ることができたということだ。台湾の学生と交流した際、日本のアニメや漫画に興味がある人が多かった。それをきっかけに日本語を独学したり、日本に実際に行ってみたりしている学生もいた。また、鹿児島に観光に行ったことがあるという学生もいた。やはり桜島や温泉の人气が高かった。「また鹿児島に行きたい」という学生もいたが、自分自身が鹿児島出身でありながら、鹿児島について知らないことが多く、の次にどこを進めればいいのか戸惑ってしまった。台湾の学生が私たちをもてなしてくれたように、鹿児島でもてなすことができるように地域への理解を深めたいと感じた。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>現地で学んだことや、パンフレットなどの資料を整理して学びを深めたいと思う。さらに、そこから疑問に思ったことや重要な点について調査したり、台湾の学生と討論していきたいと思う。また、今回の研修で自分の英語がどの程度通じるのか知ることができたため、これからどのように英語を学んでいくべきかの見通しを立てることができた。英語だけでなく、中国語や台湾語にも興味があったため、学んでいこうと考える。</p>	

平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部・1年

氏 名: 穴見 祐香子

授業科目名	海外異文化体験実習 (台湾の歴史と多様性を学ぶ)
研修先 (国・地域) 滞在地	国立成功大学 他 (台湾・台北、花蓮、台南、高雄)
研修期間	平成30年9月18日～平成30年9月27日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>私はこの研修を通して、日本と台湾の違いを多く知ることができました。まず、私たちの班がプレゼンを行った外国人労働者と介護についてですが、台湾に住む日本人で、外国人労働者に介護をお願いしている方にお話を伺うと、日本は外国人労働者に求める言語能力が高すぎるとことや、介護をする側とされる側におけるトラブルがあること、そして何よりも介護には、言語能力よりも相手に伝えようとする気持ちと、介護を雇う家族と雇われる労働者との信頼関係が大事であるということが、介護に限らず現地でコミュニケーションを取る上でも実感できたので、とても印象に残りました。また、就職する上でも日本人の学生と台湾人の学生には大きく異なっており、日本では大学三年生から就職活動を行い、新卒一括採用で一斉に就職するのが一般的であるのに対し、台湾では大学生の四年間は大学で学び、就職時期も決められていません。また、私は正直、海外に行くことに積極的ではありませんでしたが、現地の学生と話す中で、台湾の学生は外国での研修や外国に行くということにとても積極的で、留学は当たり前となっていることがわかりました。実際、私が在籍する鹿児島大学にも、交換留学生として多くの海外からの留学生がいます。それに、近年、日本では人手不足の解決策として積極的に外国人労働者の受け入れを進めています。そのため、私たちが学校生活や職場で外国人の方と接する機会はより一層増えていくことが予想できます。そうした中で、少しの期間ではありますが、海外研修に参加して、現地の人から見れば外国人として、異文化に触れ、あまり日本語の通じない環境を体験したことで、日本に住む外国人の方への見方や考え方が変わりました。それだけでなく、私たち以外の多くの学生がこうした海外研修のプログラムに参加し、個人旅行では体験できない現地の学生との交流などを体験することで、鹿児島大学が多様な人種の人々がよりコミュニケーションをとりやすい場所になるのではないかと思います。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>私は、この研修で日本に住んでいればあまり意識することのなかった、日本の良さや問題点、外国人としての立場や感情に少し気づくことが出来ました。また、現地の人々の話を聞く中で日本人との考え方の違いやそのことから生まれる文化の違いを感じ、海外に行って初めてわかることの多さにすごく刺激を受けました。これからは、様々なことに興味を持ち、日本の社会で当たり前とされていることでも批判的に見るようなより広い視野をもった人になりたいと思っています。</p>	

平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部・1年

氏 名: 石塚 真由

授業科目名	海外異文化体験実習 (台湾の歴史と多様性を学ぶ)
研修先 (国・地域) 滞在地	国立成功大学 他 (台湾・台北、花蓮、台南、高雄)
研修期間	平成30年9月18日～平成30年9月27日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回の台湾研修を通して、得た成果は大きく2つあると思います。1つ目は、台湾の文化に直接触れることができたことです。特に、台湾の食文化や交通面を感じることができました。食文化に関しては、台湾各地の夜市を訪れる中で、台湾の方々が好んでいる料理を知ったり、台湾にも日本にもあるもの、台湾独特のものを発見したりしました。1番印象に残っている食べ物は、「臭豆腐」です。台湾に行く前から耳にしていたメニューで、台湾の方も好き嫌いが分かると聞いていました。実際食べてみると、私にとっては大好物にはなりませんでしたが、自分から挑戦して臭豆腐を食べてみたことは、とてもいい経験になったと思います。注文をする際も、できるだけ中国語や英語を使ってみようと努力しました。特に、簡単な単語であれば中国語を使い、通じた時はとても嬉しさを感じました。交通面に関しては、研修中は主にMRTやタクシーを使用しました。MRTを使っている中で驚いたことは、列車内での飲食や喫煙が厳しく制限されていたことです。規則を破ると最大で1万円の罰金が科せられるというポスターを目にしました。一方、車内で電話に出ることは特に制限されていなかったため、ここでも日本と台湾の違いを感じました。</p> <p>次に、2つ目は台湾の学生との交流の中で感じたことです。今回の研修では、3つの大学を訪問しました。成功大学と高雄大学では、日本語のプレゼンテーションを行ってからディスカッションを行いました。プレゼンテーションをした中で感じたことは、もっと分かりやすい日本語を使うべきだったということです。日本語のプレゼンテーションを台湾でするということで、できるだけ分かりやすい日本語をスライドの中で使うように心がけていたつもりだったのですが、それでも伝わりにくいということがありました。この経験で、もっと相手のことを考えて行動するべきだと改めて学びました。高雄科技大学では、2日間、行動を共にしました。1日目は、高雄科技大学の先生方が企画してくださったツアーに参加しました。2日目は、鹿児島大学の学生3人・高雄科技大学の学生3人の6人で1グループになり、日本と台湾の違いについてディスカッションをしました。その日の夜は、高雄科技大学の学生らに「旗津」という場所を案内してもらいました。旗津では1台に4人乗ることができる自転車に乗ってビーチや、高雄科技大学の別なキャンパスを案内してもらいました。一緒に乗った高雄科技大学の学生は日本語が話せないため、ずっと英語での会話でしたが、お互い全ての英語を理解できていなかったとしても、楽しさで心を1つにした、とても楽しい時間だったと思います。彼らと交流する中で気づいた点は、台湾の学生の英語力の高さと積極性です。調べたところ、台湾の子供は小さい頃から英語塾に行くなど英語に触れる機会が多いということを知りました。しかしながら、日本人とのレベルと全然違い、私たちももっと英語を学ぶべきだと痛感しました。積極性に関しては、自分の意見を素直に出す人が多く、自分の気持ちを伝えるためにも私たちはもっと積極的になった方が良かったと感じました。</p> <p>これら2つのことを踏まえて、台湾で私が一番感じたことは、台湾の方々の優しさです。困っているときに声をかけたり、私たちが楽しめるように計画を練ったりしてくださいました。日本ではよく「おもてなし」という言葉を使いますが、私たちは本当に「おもてなし」ができていたのだろうか、と考えさせられました。外国の方が日本・鹿児島に来られた時は、私たちは心からのおもてなしをして、日本・鹿児島の良さを伝えられるようにしなければいけないと感じました。</p> <p>今回の研修は終わってしまうと、あっという間だったと感じます。しかし、1日1日が密度の濃い日々だったと思います。今回この研修に自分が参加することができたことをとても幸せに感じます。今回学んだことをこれからの学生生活に生かしていきたいです。</p>	

平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部・1年

氏 名: 石塚 真由

授業科目名	海外異文化体験実習 (台湾の歴史と多様性を学ぶ)
研修先 (国・地域) 滞在地	国立成功大学 他 (台湾・台北、花蓮、台南、高雄)
研修期間	平成30年9月18日～平成30年9月27日
〔研修後の抱負〕	
<p>研修後の抱負としては、1番は「中国語」を学ぶことです。その理由は、言語を学ぶことはその国について知るための1つの手段であると思いますし、言語を取得したら、自分でその言語を話して、その国の人たちと交流してみたいからです。また、台湾では中国語だけではなく、台湾語も話されており、私は中国語だけではなく、昔からある台湾語も学びたいと思っています。学ぶための具体策としては、1つ目は初級中国語の授業をしっかり受けることです。前期の授業も、台湾に興味があったためしっかり授業を受けて、良い成績も取ることができたのですが、今はもっと中国語に興味・やる気があります。後期の授業は、前期以上に単語ひとつひとつをちゃんと覚えたり、自分で正しく発音ができるようになったりしたいです。</p> <p>2つ目は、鹿児島大学のP-SEGのグローバルランゲージズスペースを活用することです。前期は英語を取っていたのですが、後期は中国語に挑戦しようと思います。1週間に1回の、ネイティブスピーカーである留学生との時間を大切にして、少しでも目標達成に近づけるようにしたいです。また、中国語の勉強だけではなく、他の国の留学生とも交流をする中で、自分の考え方を広げたり、より積極的に活動できたりするようになりたいと考え、留学生と一緒に受けられる授業も履修する予定です。</p> <p>限られた大学生活の中で、悔いの残らないように、自分がすべきこと、やりたいことを見極め、これからも頑張っていきたいです。</p>	

平成30年度 学生海外研修報告書

鹿兒島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部・1年

氏 名: 杉木 葵

授業科目名	海外異文化体験実習 (台湾の歴史と多様性を学ぶ)
研修先 (国・地域) 滞在地	国立成功大学 他 (台湾・台北、花蓮、台南、高雄)
研修期間	平成30年9月18日～平成30年9月27日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>私が台湾研修を通じて得た成果は三点挙げられる。一つ目は、日本の就職活動が抱える問題と台湾と日本の教育に対する意識の違いに気がつけたことである。私は台湾に行くまで、大学在籍中に就職を決めることや新卒一括採用という制度に疑問を感じたことがなかった。しかし、台湾の学生と就職活動について議論していく中で、学業が本分である学生がなぜ学生のうちから就職活動をしなければならないのか、また自ら大学に入り、専門的な学問を学ぶのにもかかわらず、なぜ企業を選ぶ際は、自分の才能が発揮できるかどうかよりも働きやすさを重視するのかといった今まで自分が考えたことのなかった疑問をぶつけられ、日本の就職活動は世界と大きく異なっているということに気がついた。更に、台湾の学生と奨学金について議論した時、台湾では奨学金を誰でも借りることができ、返済する際には利子が付かないということを知り、奨学金を借りられるか借りられないかは家庭により、また、返済の際には利子が付く日本よりも、学生が学習に集中する為の環境が整えられており、教育への意識が高いと感じた。二点目は、伝統的な歴史を守りながら、発展していくことの重要さである。日本では、高層ビルや大型ショッピングモールができるとともに町の商店街などが失われているが、台湾では大きなビル群の横にトタン作りの中小企業や町工場などが残っていた。また、都心、農村関係なく廟があり、台湾の人々の生活の中に密接に信仰があることに気がついた。三つ目はやはり言語とコミュニケーション能力の重要さである。今回台湾研修に行き、台湾学生と議論する際や台湾の人々の英語力の高さに驚いた。又それだけでなく、私たちが日本人であるとわかると積極的に日本語で話しかけてくれたり、台湾のことについて教えてくださったりした。私たちも英語教育を6年間受けてきているにもかかわらず、英語を自信を持って話せず、また相手の顔色をうかがうだけで積極的にコミュニケーションをとろうという態度がたりないと自覚することができた。以上が私が台湾研修を通じて得た成果である。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今回、台湾研修を通じて、テレビやネットを見ているだけでは、その国の状況や問題は理解することはできないのだと気がついた。このことから、これからは実際にその国のことを自らが知ろうとする姿勢を持つと思った。また、自分と異なるバックグラウンドを持つ人と議論することで、自分や日本のことをより客観的に見ることができると気づき、様々な視点で物事を捉えられるようになりたいと思った。また、研修により台湾に友人も作ることもできたので、積極的に中国語や英語を話す機会を自分から作っていかうと思った。</p>	

平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部 1年

氏 名: 高岡 愛

授業科目名	海外異文化体験実習 (台湾の歴史と多様性を学ぶ)
研修先 (国・地域) 滞在地	国立成功大学 他 (台湾・台北、花蓮、台南、高雄)
研修期間	平成30年9月18日～平成30年9月27日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>台湾での研修を通じて得た成果、それは言葉で自分の意見や考え、思いを伝えることの重要性です。私は中国語を学び始めてまだ間もないので、簡単な単語や自己紹介程度しか話すことができず、現地の人との意思疎通のやり取りが大変でした。研修では成功大学や高雄海洋科技大学、高雄大学の学生たちとプレゼンテーションや観光をつうじて交流する機会が多く、彼らはとても英語が堪能であることが分かりました。そのため、会話の際は中国語、英語、日本語の三か国語を交えて行いかなり頭を使う作業でしたがいい経験になりました。学生の中には日本語を勉強している生徒も見受けられ、語学に関して意欲的に学ぶ姿が印象的でした。日本では英語力が大学や会社において重視される傾向がありますが、その他の言語に関してあまり特別視されません。そのため英語圏以外の国に関心を寄せたり自ら新たに興味のある国の言語について学ぼうとする学生は少ないと思います。私は台湾の学生の貪欲に知識を吸収する姿勢を見習いたい、自分の関心のあることをとことん研究、追求したいと考えるようになりました。また、研修中台北や花蓮、台南、高雄の夜市に行く機会がありました。そこでの買い物の際、自分の欲しいものは自分から発しない限り手に入れることができないことを痛感しました。日本ならば、欲しいものをじっと見つめていると店員さんの方が察して声をかけてくれることが多くあります。日本人は相手の視線から何かを感じ取ったり、推察するというを自然と行う癖や傾向がありますがこれは台湾では見受けられませんでした。私には、日本ならではの相手の気持ちをおしはかると、台湾の自分の意見や気持ちをストレートに伝えることのどちらが優れているのか、適切であるのかという考えはありません。しかし、今回の研修を通じ台湾など日本以外で生活や仕事を行うならば私は自分から発信、伝える力を身につけることが必要だと分かりました。また、実際に居留を考える会でのお話を聞くことで台湾での日本人女性の現状や国際結婚、就労問題、子育てについて学ぶことができ、新たな問題点や自分の固定観念が大きくくつがえされることもありました。ここでも自分の口から何かを発することや受け身ではなく自ら行動し、相手に働きかけることの大切さを学びました。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>研修後の抱負としては研修を通じて得られた、自分の言葉で意見や考えを発信することを日常生活で実践していくことです。大学での中国語や英語の学習だけでなく、自らの学びとしてもっと何かを追求したり、目的をもって深くほりさげた研究を意識し実践していきたいです。また、この発信力、伝える力を台湾と鹿児島のこれからの交流、さらなる発展に生かしていかなければならないと思います。具体的には、鹿児島大学と台湾の大学との交換留学制度のさらなる活発化に携わったり、チューターとしてかかわることも良いと考えます。私自身、お互いの国の文化や考え方、歴史、現状などを自分の言葉で伝えたいという気持ちが芽生えました。そして将来的には、この発信力を台湾と鹿児島の観光産業や外交に活用し、つながりを深めたいです。</p>	

平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部・1年

氏 名: 田畑 絢香

授業科目名	海外異文化体験実習 (台湾の歴史と多様性を学ぶ)
研修先 (国・地域) 滞在地	国立成功大学 他 (台湾・台北、花蓮、台南、高雄)
研修期間	平成30年9月18日～平成30年9月27日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>この研修を通して、私が一番実感したことは、英語力の必要性です。私はこれまで受験用の英語は勉強してきましたが、実際に英語を話すことには重要だと分かっているながらも避けていたように思われます。今回の研修で台湾に来てみて、台湾の人々の英語力に圧倒されました。発音もネイティブスピーカーのように流暢で、英語が次々と発せられていました。台湾は日本と同じように、母国語が英語ではないのに、なぜほとんどの人がこんなにも流暢に英語を話すことができるのだろうと思いました。研修で台湾の学生と交流する機会がありましたが、英語を使っての会話でした。相手が言っていることはなんとなく分かっている、上手く答えることができず、とてももどかしかったです。改めて自分の英会話能力の無さを実感しました。実際にも、台湾の学生から、「なぜ日本人は英語が話せないの?」と聞かれました。自分でも本当にそう思いました。日本ではだいたい小学校高学年から英語教育が実施されています。しかし、読解はできても、聞くことや話すことになると、なぜできないのだろうかと思いました。自分の英語の勉強の仕方ですが、日本の英語教育に非常に疑問を持ちました。と同時に、改めて英語の必要性を強く感じました。もっと、話すことを重点的に勉強しなくてはならないという、自分がこれからしなければならぬ新しい課題を見つけることができました。台湾に研修に来てみての成果は、英語力の必要性に気づき、課題になったことです。また、私たちは台湾の大学でプレゼンテーションを行いました。私たちの班の内容ではないのですが、日本の就職活動についての班があり、日本と台湾の就職活動の違いを知りました。日本では一般的に大学3年生後半に始まり、順調にいけば在学中に就職先が決まります。しかし、台湾では大学を卒業してから就職活動をします。私は、日本の就職活動が世界でも同じかと思っていたので、むしろ、日本の就職活動は世界でも稀であるということに驚きました。そして、大学は学ぶところであるということに改めて気付きました。日本で就職するつもりなので、在学中に就職活動をしなくてはならないとは思いますが、勉強できる環境にいるのでしっかりと大学でしかできない勉強をしようと思いました。また、台湾と鹿児島の共通点を見つけることができました。それは、サツマイモです。サツマイモは鹿児島の名産品で全国でも有数の産地で有名です。台湾に行くまで分からなかったのですが、台湾もサツマイモが名産だそうです。街のいたるところで、サツマイモを使ったお菓子の広告があったり、実際にもサツマイモのアイスを食べたりしました。この研修を通して、日本と台湾の違い、共通点、これからの自分の課題に気づくことができ、本当に参加して良かったと思いました。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>研修後の抱負としては、本格的に英語の勉強をします。中高6年間の英語を総復習すること、英語の発音の仕方を学ぶこと、英語を話す相手がいなければ、独り言でもいいので毎日英語を話すことを徹底的に実施しようと思います。また、英検TOEICやTOEFLなどの資格にも積極的に挑戦しようと思います。また、これまでの高校生活と違って、自由な時間がある大学生の今だからこそ、興味がある分野の探求をしようと思います。私は、英語だけでなく言語に興味があります。第二外国語で勉強をしているドイツ語はもちろんのこと、中国語や台湾語、韓国語、フランス語、スペイン語など様々な言語を学びたいです。そして、言語だけでなく、その言語が使用されている地域の文化についても学びたいです。</p>	

平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部・1年

氏 名: 本田 依理

授業科目名	海外異文化体験実習 (台湾の歴史と多様性を学ぶ)
研修先 (国・地域) 滞在地	国立成功大学 他 (台湾・台北、花蓮、台南、高雄)
研修期間	平成30年9月18日～平成30年9月27日
〔研修を通じて得た成果〕	
<p>今回の研修を通じて台湾人の民族性として第一に私が感じたことは、台湾人は所見の人も含めコミュニケーション能力が高いということである。今回、私たちは計3校の大学生と交流した。中にはすでに文面上でコミュニケーションをとっていた人もいたが、その他ほとんどは初対面であった。学年も違い、言葉も通じない異国の人との交流に対して私たちは非常に緊張していたが、台湾の学生は積極的に私たちに話しかけて、話を広げようとしてくれた。英語で会話をする際、語彙力に自信がなかった私はなかなかペアの学生に話しかけることができずにいたが、ペアの学生は対照的に翻訳をしながらでも私との会話の機会を与えてくれた。このとき私は、人と接するうえで最も大切なことは単なる語学力ではなく、相手に対して自分の意見を伝えようとする気持ち自体なのであることに気付いた。今まで語学力ばかりを求めていたが、今後はその窓口である気持ちの部分をお忘れなくしたい。そして次に私が気付いたことは、台湾人の優しさである。日本人はよく、親切で人情味があると言われる。しかし、実際に都会に行くと、忙しいことを理由に断られたり、冷たい顔をされたりすることがある。しかし、台湾の人々は暑い中わざわざ道案内を買って出してくれたり、タクシー代を負けてくれたりと、都会の人にも非常に親切だった。また学生との班行動でも、異国の私たちに對する目一杯のおもてなしの心を感じた。中でも最も驚いたことは、台湾のおまけ精神の強さである。台湾では、商品を3つ買うと1つ付いてくるのがよくあった。日本にもこのようなサービスはあるが、台湾ではそもそも店の商品の値段を管理しておらず、勝手に値段が安くなっていたことさえもあった。データ管理が徹底されている日本では考えられないことではあるが、この緩い管理体制までもが、台湾人のお金にこだわらない人柄の良さを表しているのかもしれない。私はよくお金に貪欲であると言われるので、金という対価を求めるだけでなく人に尽くす心を育みたいと思った。最後に、台湾で日本人であると伝えると、明るく挨拶をされたり、私たちよりも深い日本の歴史についての知識を教わったりすることがよくあった。台湾は戦時中日本に統治されていたにも関わらず、台湾人から日本人への敵対心を感じることはなかった。それどころか、私たちに当時の話を詳細に教えるなど、歴史や文化を超えた繋がりを求める気持ちを感じた。先述の通り、日本はグローバル化に向けて語学力を求めるだけでなく、自国の歴史、文化を知ったうえで他国に対する積極的な会話力を社会全体として育成する必要があるように感じる。事前学習や、現地での座談会を通して、異国との社会的な風習や文化の違いを学んだ。同じアジア圏でもこれほどの違いがあるので、さらに距離がある国の文化への学習意欲が湧いた。</p>	
〔研修後の抱負〕	
<p>個人的な話ではあるが、私は中学生の頃から大学での留学を考えていた。私はよく視野が狭く先入観や固定観念にとらわれすぎであると注意を受けるからである。異国の地で実際に生活する中で初めて気づく自然な文化的差異や、現地の人々との会話を通じて考え方の違いを知り、多面的かつ寛容な物の捉え方を身につけることができるかもしれない、そう考えて今回の研修への参加を決めた。最初に、語学の勉強も参加目的として考えていた私は、英語圏でなく、同じアジア圏である台湾では大した文化の違いも想定していなかった。ほんの数日の研修で自分の考え方を単に学べるだけの学びがあるか心配だった。しかし実際には数多くの大切なことを学んだ。研修に参加する以前のこの不安こそが、すでに否定的な先入観だったのである。今後は何事にも余計な詮索をせずに、常に新しい学びに素直に向き合う姿勢を持ちたい。そして、英語での会話から自分の語学力に対して抱いた劣等感を払拭するためにも、今後も勉学に勤めたい。そして、異国の人との繋がりを保つためにも、今までどおり国際交流の機会を大切に、今回の研修で縁をもった台湾の学生とも関係を絶やさないようにしたい。</p>	

平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部 1年

氏 名: 宗岡 万里

授業科目名	海外異文化体験実習 (台湾の歴史と多様性を学ぶ)
研修先 (国・地域) 滞在地	国立成功大学 他 (台湾・台北、花蓮、台南、高雄)
研修期間	平成30年9月18日～平成30年9月27日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>私が今回の台湾研修を通して学んだことは大きく2つある。一つ目は人柄の違いだ。台湾の人はとても親切で空港にいただけでもよく喋りかけてくる事が多かった。日本人は赤の他人には少し冷たい様などころがあるが台湾の人はあったかいと感じた。移民会館に行った際台湾人と結婚した日本人の奥さんたちから話を聞く機会があった。日本と同じ少子高齢化の問題を抱える台湾だが、日本の様に入る保育園がないという問題はあまり無いようだ。なぜなら台湾の人々には子どもは親が育てなくてはならないという考え方がなく民間のベビーシッターをよく利用するからだ。日本は政府が制度をしっかりと整えてはいるが台湾では制度を整えるより先に人々が自分から行動を起こすのらしい。そのため日本での問題があまり問題にならないのである。ここにも台湾人の人任せではなく自分がなんとかしようという人柄がみられる。台湾での移動はタクシーで移動する事も多かった。その際のタクシーの運転手は私服で運転中に携帯電話を触るし運転もマナーがいいとは言えなかったが丁寧に道を教えてくれたりカバンをホテルまで持ってきてくれたりとどこか優しさを感じた。このように制度で決められている優しさよりも制度がなくても自然と出てくる優しさの方が本物の優しさだと思った。二つ目は自分のこれからの人生について考える事ができたという事だ。現地の大学生との交流も研修の一つの目的だった。台湾の就職活動は学校を卒業してから始まる。特に男子の場合4ヶ月の兵役を終えてから就職活動が始まることになる。大学生の間に就職活動をして卒業後すぐに働き始める日本の大学生とは違って仕事をゆっくりと選ぶ事ができるのだ。日本は浪人や新卒など年齢にこだわりすぎているように感じた。現地の大学生は自分の将来について具体的な考えを持っていてまだ将来のしたい事が決まっていないには眩しく見えた。台湾は日本と同じ島国なので水産系の仕事に力を入れていた。大学が食べ物やお土産をプロデュースして市場を盛り上げているらしい。同じ島国の日本が学べることは多いと思う。他にも原住民について学べる資料館や原住民屋台などもありの暮らしもうまく共生できているように感じた。鹿児島の祭りでも鹿児島ならではのものを売る屋台があってもいいなと思った。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今回の研修で衝撃を受けたことの一つに現地の大学生の英語能力の高さが挙げられる。発音も私と比べ物にならないほど上手だった。私達はいずれ英語が必須科目ではなくなる。それを英語があまり得意では無い私はどこかで嬉しく感じていたがそれは逃げだなど感じた。これまでの受験のための英語も大切であるが実際に聞き取れる力や思ったことを話せる力を身につけていきたい。</p>	

平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部・1年

氏 名: 山崎 さつき

授業科目名	海外異文化体験実習 (台湾の歴史と多様性を学ぶ)
研修先 (国・地域) 滞在地	国立成功大学 他 (台湾・台北、花蓮、台南、高雄)
研修期間	平成30年9月18日～平成30年9月27日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回の台湾研修では、現地の文化や人にたくさん触れることができました。この研修では、私は自分の気持ちを相手に伝えようとする意志の大切さを学びました。台湾では、三つの大学へ行き、その大学生たちと、ディスカッションであったり、自己紹介や趣味の話を行ったりしました。私は英語があまり得意ではないし、専攻している第二外国語も中国語ではありませんでした。そのためこの研修に行く前は、初対面で、ましてや言葉が通じないのにディスカッションなんてできるのだろうかといった不安がありました。しかし、いざ台湾の学生たちとのディスカッションは、時間はかかりましたが中身のある話し合いができたように思います。話が通じた時は感動と嬉しさと楽しさでいっぱいでした。互いに英語で話し合いをすることもあれば、日本語が話せる学生とは日本語で話したりすることもありました。これまで英語で話し合いをする機会などほとんど無かったので、自分の言いたいことを英語で相手に伝えるのはとても大変でした。台湾の学生たちの英語のスピーキング能力には驚かされたのと同時に、自分の英語能力の低さを痛感しました。けれども、台湾の学生の人たちは、私が拙い英語で話している時は、何を言っているのか一生懸命聞き取ろうとしてくれたり、私が相手の英語をよく理解できずにいた時は、他の言葉で言い換えたり、ジェスチャーで表現しようとしたりと、大変親身に接してくれました。また、学生たちだけではなく、台湾の人たち全体が優しくなったように思います。日本語を少しだけ話せる、という方たちがたくさんいました。そうやって少しでも日本語を話してもらえた時は素直に嬉しかったです。私ももっと中国語を勉強してくればよかったと後悔しました。けれども、言葉が通じなくても、伝えようとする意志があれば、相手にも届くものがあると思います。そのことを今回の台湾研修を通じてよく実感しました。どうせ言葉が通じないから、などと諦めたりせずに、積極的に話をすることが大切だと思います。台湾研修に参加し、学生たちとの交流を通して、以前より、私は人と話す際に自分の意見を素直に伝えることができるようになったと思います。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>現地の学生たちと話をすると、日本に来たことがある人達がたくさんいました。しかしほとんどの人たちは、東京や大阪、京都などの大都市に訪れていました。鹿児島と近い所に位置しているにも関わらず、鹿児島に来たことがないというのは残念に思います。鹿児島の魅力を台湾に伝えるとともに、受け入れ体制をもっと整えるべきだと思います。親日国家と言われる台湾ですが、台湾についてあまり知らない日本人が多いと思います。私もこの研修に参加するまではほとんど台湾については知りませんでした。ですから、自分が率先して、この研修で学んだ台湾の歴史や文化を周囲の人たちに伝えていきたいと思っています。まずは台湾と鹿児島が互いの歴史や文化を知ることから交流を始めていけたら良いかと思っています。</p>	

平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部 1年

氏 名: 横山 陽菜

授業科目名	海外異文化体験実習 (台湾の歴史と多様性を学ぶ)
研修先 (国・地域) 滞在地	国立成功大学 他 (台湾・台北、花蓮、台南、高雄)
研修期間	平成30年9月18日～平成30年9月27日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>私が今回の台湾研修を通して得られた成果は、国際結婚の法整備、働く女性の子育て支援の必要性を痛感できたことだ。研修二日目に台湾人の配偶者を持つ日本人女性たちによって作られた「居留問題を考える会」の方々のお話を聞いた。国際結婚、とりわけ親日で有名な台湾人との結婚とくれば、今まで生きてきたお互いの国の文化的な差異はあるものの、日本人同士の結婚同様に円滑にいきそうだというのが私の所見であった。だが、実際のところは、国際結婚に至るまでの手続きが非常に複雑であったり、国際結婚をした日本人の法的地位が脆弱であったりと様々な問題を抱えていた。一方で、台湾では子育て環境が日本よりも格段に整っていることも分かった。両親共働き世帯が主流であるため、特に日本の首都圏で叫ばれている待機児童もいないほどベビーシッターや学童保育が充実している。台湾では子育ては女性の担当ではなく、親戚一同のみならず良くも悪くも周囲の皆が積極的に関わることで、母親は孤独や重圧を感じず、なおかつキャリアをあきらめることなく子育てができる。日本ではこの風潮は浸透していない。男性の育児休暇取得が推進されてはいるものの、未だに男性は仕事優先、女性は育児優先なのが現状である。女性自身も母親である自分が子育てをしなければならぬという重圧を自ら抱えてしまっている場合が多いと感じる。加えて鹿児島においては、有業者に占める女性の割合は高いが、男性の家事関連時間が短いという統計も出ている。長年日本で培われてきた女性が子育てをするものだという風潮は簡単には変えられないからこそ、働く母親を応援する制度の見直しが緊急性を要すると切実に感じ、まだ大学生だからと主体的に考えてこなかったが、今回台湾と日本の子育て環境を比較、検討したことで性別や年齢に関係なく子育てはすべての人に関係すべき問題であると再認識することができた。また、研修を通して高雄科技大学、成功大学、高尾大学の学生さん達と交流する中でたくさんの刺激を受けた。日本の学生はディスカッションの場や他大学生との交流の機会があっても、恥ずかしがって自分の意見を主張することはあまりせず、内輪で固まってしまうが、台湾の学生は自分の意見を、しかも母国語ではない英語でしっかりと論じ、初対面の時から積極的に私たちに歩み寄って優しくしてくれた。そのおかげで、台湾と日本の学校生活や食文化の違いについて語り合ったり、台湾各地を案内してもらって台湾の街の様子、生活風景を体感したりとても充実した時間が過ごせた。国や文化は違うけれど、考え方、生活スタイル、趣味などの共通点を見つけ喜び、全く違う点を見つけ驚き、今まで普通だと思っていたことが普通ではないと分かったことで新たなものの見方を知り、台湾についてだけでなく日本のことも改めて見つめなおすことができた。</p>	
<p>今後の抱負</p> <p>私は大学で法学を専攻している。研修成果に国際結婚における法整備の必要性を上げたことから、日本人と結婚し、鹿児島に住んでいる外国人の皆さんの力になりたい。「居留問題を考える会」の方のお話の中にも、役所での法的手続き関係は母国でも難しいのに外国人となると言語の壁も重なり、なお難しくなるという課題が出てきた。また、役所の職員が間違っただけなのに、得られるはずの資格や市民権が得られないだけなのに、日本の法の専門知識もないので途方に暮れあきらめざるを得ない場合もありうる。そんな時に私が外国人の皆さんに寄り添い、難しい手続きの手助けや法に関する不明点があれば説明をし、鹿児島での結婚生活を幸せに送ってほしいと思う。そのために、専門の法律の勉強だけでなく、世界の共通言語である英語の向上に向け意欲的に取り組みたい。</p>	

平成30年度 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

(学部または研究科・学年) 法文学部 1年

氏 名: 米倉 はるか

授業科目名	海外異文化体験実習 (台湾の歴史と多様性を学ぶ)
研修先 (国・地域) 滞在地	国立成功大学 他 (台湾・台北、花蓮、台南、高雄)
研修期間	平成30年9月18日～平成30年9月27日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>日本語の通じない環境下に置かれることが初めてだったので、これまでに感じたことがないほど語学力の必要性を感じ、確実に今後の語学学習のモチベーションになった。また、台湾に在住している日本人の方とお話する機会があり、海外での生活、特に国際結婚してからの生活についてお話を伺った。居留問題を考える会のほか、たくさん台湾在住の日本人の会が存在していた。国籍に関する法律や永久居隆権の問題など、日本で普通に過ごしていたら、目を向ける機会を得られなかったであろうことを知ることができた。さらに、台湾の大学(成功大学、高雄科技大学、高雄大学)との交流もよい刺激となった。成功大学では、台湾文学館や王育徳記念館へ行くツアーを企画していただいた。台湾と日本の関わりや歴史、王育徳の人生、日本統治時代のことなど、事前学習では把握しきれなかったことも多く、より深く知ることができた。その後のプレゼンでも、日本語で台湾の風習や食文化についてお話していただいた。高雄科技大学も、バスツアーを企画してくださった。三和瓦窯では、台湾の建物によく使われていたレンガの工場を見た。花窓といわれる台湾の縁起物のレンガや時代を追った建物の材料、構造、他国からの影響、昔の上流階級と一般的な人の家の違いについて学んだ。佈光山佈院記念館では、台湾での仏教についての理解を深めることができた。日本の礼拝の仕方とは少し違い、戸惑ったが、高雄科技大学の学生の助言や案内のおかげで無事礼拝ができた。後日、学生同士でディスカッションを行った。私のグループでは、将来の夢についてディスカッションした。自分の夢について語る機会はこれまで少なかったが、他の人からの意見を聞くのはとてもいい刺激になったとともに、自分の将来についてより深く考えるいい機会になった。別の日ではあるが、台湾で日本式の寺に行った。“日本式”といっても、寺と神社が共存していたので、日本の寺とは別物だった。他国から見た日本というものを感じられて興味深かった。高雄大学では、プレゼンテーションを班ごとに行った。その後のディスカッションでは、プレゼンテーションの中身についてはもちろん、高雄大学の学生の日本留学のときの話や私とペアの方がの趣味が料理と共通していたので料理についても話した。日本ならではの調味料、台湾ならではの食材、外食文化などとても興味深かった。今回の研修での大学生との交流を通して、生活している国は違うが、同じだと感じることも多々あった。たとえば、将来の夢。誰だって少しの不安と希望を持って前に向かってるんだと自分も頑張ろうと思えた。同世代だからこそ共有できることは、国籍は関係ないなと実感した。これからもたくさんの人と交流していきたい。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>日本について聞かれたときに、検索しないと答えられないという場面が多々あった。異文化について知る前に、まずは日本についてより深く知らないといけないと感じた。また、高雄科技大学の学生には、予定にはない日にも台南や高雄を案内してもらおうことがあった。自分もあの時のように鹿児島を案内できるだろうか。鹿児島を他国の大学生に紹介するならどこに行こうか、と考えている。私の今後の課題は、日本についてもっと知ること、相手の国を知ること、コミュニケーション能力の向上である。</p>	